

■参加申込方法 締切日：京都6月11日(月) 東京6月18日(月)

参加をご希望の方は、「公開シンポジウム2007」ホームページ (<http://www.nies.go.jp/sympo/2007/>)にてお申し込みいただくか、下記受付ハガキに氏名、年齢、性別、連絡先住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス、参加希望会場、職業をご記入の上、下記登録事務局宛に郵送もしくはFAXにてお送りください。  
ホームページにてお申し込みいただいた場合は、最終画面を印刷の上、シンポジウム当日に受付までお持ち下さい。申し込み後、確認メールがお手元へ届きますので、確認メールを印刷の上、お持ちいただいたも構いません。

添付ハガキにE-mailアドレスをご記入いただいた場合はE-mailにて、ご記入いただけない場合はFAXにて、どちらにも該当しない場合は郵送にて、後日「参加証」をお送りいたしますので、シンポジウム当日に受付までお持ち下さい。

※申込み多数の場合、会場定員に達した時点で申込みを締め切らせていただきますので、予めご了承下さい。  
※シンポジウムの会場風景は、記録用にビデオ編集され、後日DVD化して広く配布されます。また国立環境研究所のホームページにも掲載される予定です。ご了承下さい。

FAXでのお申し込みの場合は、この方向でご送信下さい。

国立環境研究所 公開シンポジウム 2007 登録事務局  
日本コンベンションサービス株式会社内  
FAX:03-3508-1706  
<http://www.nies.go.jp/sympo/2007/>

当シンポジウムにご参加を希望される方は、以下の項目をご確認の上、お申し込み下さい。

- ご記入いただきました個人情報は、当シンポジウムの運営管理の目的にのみ利用させていただきます。
- ご記入いただきました個人情報は、当シンポジウムの主催者である独立法人国立環境研究所に提供いたします。
- ご記入いただきました個人情報は、必要セキュリティ対策を講じ厳重に管理いたします。
- お申し込みいただいた方には、次回開催予定のシンポジウムに関するご案内を送付させていただきますことがあります。但し、ご要請があれば、すみやかに中止いたします。

〈お願い〉グループでのご参加の場合は、恐れ入りますが本申込書をコピーの上、お一人ずつお申し込み下さい。

国立環境研究所公開シンポジウム 2007

参加申込書 未来を拓く環境研究  
—持続可能な社会をつくる—

|        |  |        |
|--------|--|--------|
| (フリガナ) | 年 齢  | 性 別    |
| 氏名     | 歳  | 男<br>女 |
| 連絡先住所  | 次のいずれかに○印の上、ご記入下さい。<br>(①勤務先 ②自宅)<br>〒□□□-□□□□                         |        |
| TEL    | FAX  |        |
| E-mail |  |        |
| 参加希望会場 | ①京都会場(6月16日) ②東京会場(6月24日)  |        |
| 職業     | ①教育・研究 ②行政 ③団体職員 ④会社員 ⑤自営業 ⑥主婦<br>⑦小・中学生 ⑧高校生 ⑨大学生・大学院生 ⑩無職<br>⑪その他( ) |        |

このシンポジウムを何でお知りになりましたか。(複数回答可)

①ポスター ②ダイレクトメール(郵送) ③ダイレクトメール(E-mail)

④国立環境研究所ホームページ

⑤その他のホームページ(サイト名: )

⑥メーリングリスト(メーリングリスト名: )

⑦新聞(新聞名: )

⑧雑誌(雑誌名: )

⑨知人からの紹介 ⑩国立環境研究所所員からの紹介

⑪その他( )

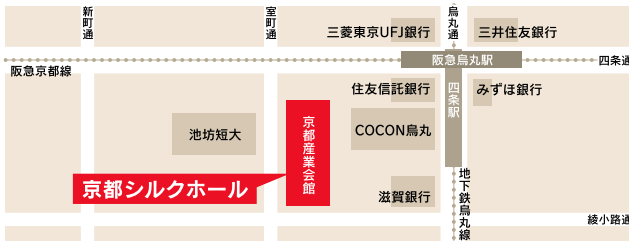
情報送付について

今後、国立環境研究所からの催し物等の情報案内を  
 希望する  希望しない

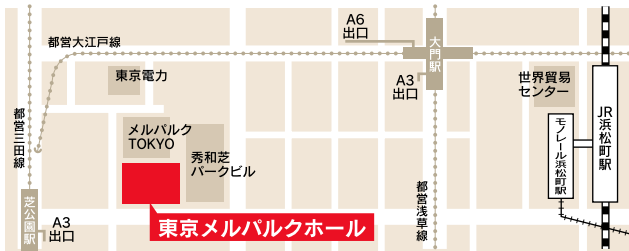
■ポスターセッション

- 環境GIS —日本の環境を地図上で見る—
- ハロカーボン類のモニタリング  
—高頻度観測によって東アジアにおける排出量を推定する—
- 温室効果ガスのデータベースとその解析支援システム
- 気象データを利用した大気の動きの総合解析・表示システム
- 地球の気候はどう変わる? —将来気候予測研究の最前線—
- 低炭素社会のエネルギー供給システムとは?  
—再生可能エネルギーの有効性を考える—
- 日本で低炭素社会はつくれるのか?  
—2050年CO<sub>2</sub>排出量70%削減シナリオ—
- 自動車から排出されるCO<sub>2</sub>の低減を考える
- より良いリサイクルシステムを作る —10~20年後のビジョン—
- 揮発性有機化合物の多成分リアルタイムモニタリングの新手法
- 大気汚染の健康への影響を調べるために —疫学調査オフィスの仕事—
- ナノ粒子の多いディーゼル排気ガスの循環機能への影響
- 植物のストレスを診断する —アサガオで知る大気汚染—
- 鳥で環境変化がわかる —環境指標動物としてのウズラの有用性—
- 有機フッ素系界面活性剤による水と二枚貝の汚染実態
- 湖に溜まる有機物の起源を探る —同位体を用いた新たなアプローチ—
- 自然のシステムに逆らわない流域の水環境管理とは?
- 水辺に生きる植物たちのはたらき  
—植物による土壌への酸素輸送システム—
- 外来ザリガニは湖沼生態系を攪乱(かくらん)するか?
- 化学物質の生態影響を取り上げた文学 —「沈黙の春」からの変遷—

■京都会場 2007年6月16日(土) 12:00~17:00  
京都シルクホール (定員 700名)  
京都市下京区四条通室町東入 京都産業会館3階  
TEL:075-211-8341  
アクセス: 京都市営地下鉄烏丸線四条駅・阪急京都線烏丸駅26番出口より徒歩3分



■東京会場 2007年6月24日(日) 12:00~17:00  
東京メルパルクホール (定員 1200名)  
東京都港区芝公園2-5-20 TEL:03-3459-5501  
アクセス: JR・モレール浜松町駅より徒歩10分/都営三田線芝公園駅A3出口より徒歩2分/都営浅草線・大江戸線大門駅A3・A6出口より徒歩4分



〈お問い合わせ〉  
国立環境研究所 公開シンポジウム 2007 登録事務局  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命館が関ビル  
日本コンベンションサービス株式会社内  
TEL:03-3508-1277 FAX:03-3508-1706  
E-mail:nies2007@convention.co.jp  
<http://www.nies.go.jp/sympo/2007/>



未来を拓く環境研究

—持続可能な社会をつくる—



独立行政法人  
国立環境研究所  
公開シンポジウム2007

参加費  
無料

京都会場 2007年6月16日(土) 12:00~17:00  
京都シルクホール

東京会場 2007年6月24日(日) 12:00~17:00  
東京メルパルクホール

## 未来を拓く環境研究 —持続可能な社会をつくる—



### ■ごあいさつ

国立環境研究所は、1974年に前身の国立公害研究所として誕生して以来、環境にかかわるさまざまな問題に対し科学的な原因解明と解決策を追求しつづけています。この間、環境問題は大きく変貌をとげてきました。特定の地域に深甚な被害をもたらした公害問題から、地球全域に影響をおよぼす地球環境問題へと移ってきたのです。

地球温暖化や生態系の劣化にみられるように、地球環境問題は長年にわたる人間活動に起因し、自然のシステムの根幹にかかわっています。閉鎖系として物質が循環することを基本とする自然のシステムを、大幅に変えてきたのが私たち人類です。その最初の契機は1万年ほど前の農耕と家畜飼育の開始にもとめられるかもしれませんが、大規模な変化の引き金になったのは、250年ほど前にヨーロッパで始まった産業革命でしょう。特に、近年の工業化、都市化、交通・運輸システムの拡大、人びとのライフスタイルの変化は、自然のシステムから大きく逸脱した大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会をつくりだしました。

この状況を食い止めるスローガンは、サステナブルすなわち持続可能な社会をつくることです。その実現は容易ではありません。しかし、今を生きる私たちがその努力を始めなければ、状況はさらに悪化し取り返しがつかなくなります。持続可能な社会の実現には、技術、制度、価値観などにかかわる多くの方法があります。私たちに求められているのは、さまざまな方法を効果的に活用することです。国立環境研究所で行っている研究には、環境的に持続可能で住みよい社会づくりを目指すものが数多くあります。「未来を拓く環境研究」と題する本年の公開シンポジウムでは、その成果のいくつかを紹介しながら、持続可能な社会をどのようにつくっていくかを皆様とともに考えたいと思います。

私たちは、皆様に講演を聴いていただくこと、そしてポスターを前に皆様と話すことを楽しみにしています。私たちの環境研究の成果は、多くの皆様に理解され共有していただいでこそ価値が高まるからです。幅広いご意見をいただきたく、本シンポジウムへのご参加を心よりお待ちしております。

独立行政法人国立環境研究所 理事長 大塚柳太郎

### ■プログラム

- 12:00~13:00 ポスターセッション
- 13:00~13:20 基調講演……………理事長 大塚 柳太郎
- 13:20~14:00 講演1……………亀山 康子  
地球温暖化を巡る国際交渉  
～その現状と課題～
- 14:00~14:40 講演2……………珠坪 一晃  
微生物を利用したバイオマスの資源化技術  
～廃棄物・排水の利用を考える～
- 14:40~14:55 休憩
- 14:55~15:35 講演3……………松橋 啓介  
脱温暖化社会に向けた交通とまちづくり  
～2050年の持続可能な交通の姿を今から考えましょう～
- 15:35~16:15 講演4……………一ノ瀬 俊明  
都市の温暖化と自然を活かした暑さ対策
- 16:15~16:20 閉会挨拶
- 16:20~17:00 ポスターセッション

＜キリトリ線＞

郵便はがき

1 0 0 - 0 0 1 3

お手数ですが  
50円切手を  
貼ってお出し  
下さい

東京都千代田区霞が関1-4-2  
大同生命霞が関ビル18階

日本コンベンションサービス株式会社内

国立環境研究所  
公開シンポジウム 2007 登録事務局 行

